

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年12月10日

【評価実施概要】

事業所番号	1090200112
法人名	医療法人富士たちばなクリニック
事業所名	グループホーム涼風の家
所在地	高崎市倉渚町水沼131番地1 (電話) 027-378-3030
評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成20年11月19日

【情報提供票より】(平成20年 10月 31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19年 8月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 3人, 非常勤 5人	常勤換算 7.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	300 円	昼食 450 円
	夕食	400 円	おやつ 50 円

(4) 利用者の概要(10月 31日現在)

利用者人数	8 名	男性 2 名	女性 6 名
要介護1		名	要介護2 6 名
要介護3	2	名	要介護4 名
要介護5		名	要支援2 名
年齢	平均 85.5 歳	最低 74 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	富士たちばなクリニック
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、東に榛名山系や周囲に山々を望み、川を挟む対岸には「せせらぎ公園」と「せせらぎ温泉」が整備され、相間川が近くを流れる自然豊かで静かな環境のなかにある。開設1年余りを経過したホームでは、職員も入居者も個々に尊重し合い笑顔の絶えないホームで、コミュニケーションを重視した支援に努めている。また、入居者の目線に立ち、入居者一人ひとりの細やかな要望や希望を汲み上げるべく前向きな姿勢で、地域の人達とのつながりを大切に事業所運営に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	平成19年8月に開設し、今回が初めての外部評価である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、全職員に報告書の用紙を配り、記入されたものを責任者と管理者がまとめ全員で確認している。自己評価から、家族との接し方や家族が苦情を言える環境づくりに取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議を隔月に開催し、事業内容や行事計画、外部評価の予定等の報告と意見交換を行っている。会議の概要を廊下に掲示し、家族や訪問者に伝えている。家族からの入居者ができることはやらせてほしいとの要望や地元の委員から地域のイベント情報が寄せられ、これらの要望や情報を活かした事業所運営が行われている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情受付ボックスを設置するなど家族が苦情等なんでも言える雰囲気作りに取り組んでいる。統括責任者は、いろいろな機会に家庭を訪問し要望を聞き、要望を取り入れた支援を行っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	中学校の器楽演奏や幼稚園の運動会に招待され、社会福祉協議会主催の「山並み祭り」や地元の獅子舞いを見物している。入居者の知人友人が訪れてお茶を飲んだり、米や野菜などの食材購入は地元の商店を利用するなど、地元の人達との交流を大切に事業所運営に努めている。

2. 評価報告書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設にあたり、職員全員で話し合い「心も身体も健康で個々に尊重し合える笑顔の絶えないホーム」の理念を創りあげている。	○	事業所は、地域の交流を大切に考え努力している。地域密着型サービスの役割を目指しているので、理念に加えた方が明確化すると考えるので見直しを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関等に掲示し、朝礼時やカンファレンスで唱和している。理念に基づき、日々の取り組みでは、笑顔を絶やさず優しい言葉で相手を思いやる心をもって対応している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	幼稚園の運動会には見物場所を準備して招待されたり、中学校の演奏会に参加したりしている。また、社会福祉協議会主催の「山並み祭り」や地元の獅子舞いを見物している。米や野菜等の食材は、地元商店で購入するなど地元の人々との交流を大切にした事業所運営に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、全職員に用紙を配り記入されたものを統括責任者と管理者がまとめ全員で確認している。自己評価から、家族との接し方や家族が苦情を言える環境づくりに取り組んでいる。外部評価は、今回が初めてである。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月毎に開催し、家族代表、地区区長、倉渚支所係長等が参加し、行事開催等の報告と意見交換を行っている。会議内容は廊下に掲示し、家族や訪問者に伝えている。入居者ができることはやらせてほしいと家族から要望が出たり、地元の参加者からイベント情報が寄せられ、事業所の運営に活かしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	高崎市の広報を月2回受け取りに行ったり、運営推進会議の案内状や会議報告書を届けるなど機会あるごとに支所に足を運んでいる。担当者との連携を図り、入居情報を得て事業所運営に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	法人が発行する情報新聞「さんぽみち」を利用料請求書に同封し、新人職員紹介、行事予定等も報告している。面会時には、健康状態等を直接話し、面会の少ない家族には電話で報告している。統括責任者はいろいろな機会に、家庭を訪問し要望を引き出す努力をしている。預かり金は出納簿につけ、領収書を利用料請求書に同封している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付ボックスを設置するなど家族が苦情等なんでも言える雰囲気づくりに取り組んでいる。家庭復帰を目指している入居者の家族から過剰介護はしないでほしいとの要望があり、できることはしてもらう等家族の意見を取り入れた支援を行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者へのダメージを防ぐため職員の異動は極力抑え、異動の場合は十分な説明を行っている。職員の採用時には見学、実習など行い、すぐに辞めることのないように話し合い採用している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	基礎研修等外部研修や法人本部主催の研修が定期的に行われ、順番で参加し報告書を作成し伝達講習を行っている。また、ミニカンファレンスや毎月の勉強会などで日々の介護支援の方法などを検討し資質向上に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県地域密着型サービス連絡協議会に加入し、大会や職員相互派遣研修に参加している。また、計画作成担当者を兼ねる管理者は、地区のケアマネージャー会議に出席すると共に法人が運営する8つのグループホームで組織する管理者会議に出席し、意見交換や情報を集めサービスの質向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	担当する介護支援専門員から入居希望者の情報提供書を受け、家庭を訪問し本人や家族の生活状況等を把握している。本人や家族には見学や体験入居を通じホームで過ごしてもらい、できる限り時間をかけ安心して生活できるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、入居者から昔の出来事や地域の習慣などを聴いたり、地元野菜の調理方法を教わっている。また体調が悪い時に、声をかけられ元気づけられたり、「今日もよろしく」と声をかけられる等、共に支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何でも話し合える雰囲気作りに努め、日々の生活の中で希望等を聴き、散歩やカラオケ等個々の要望に応えられるように努めている。意思表示の困難な入居者は、表情や言動から意向等の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	各入居者の担当職員を決めて、日々のケアの中で気づいたことをカンファレンスノートにメモし、それを基に話し合い、計画作成担当者は本人、家族の希望を取り入れ計画を作成している。介護計画は、家族にコピーして渡し説明し、サインで了承を受けている		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期見直しは3ヶ月毎に行い、継続の場合でも家族に説明している。1ヶ月毎に経過をまとめ、個々の経過表に記載している。退院等に伴う状況変化では速やかに本人や家族と相談し、現状に即した新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医の受診や行きつけの理美容院の送迎は家族がしているが、家族ができない時や緊急時は職員が対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切に、かかりつけ医のある入居者へは、適切な医療が受けられるように事業所からも情報提供している。また、契約時にホーム協力医の説明を行い、同意を頂いた入居者には月1回の往診を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	急変時の対応、死亡した場合の対応のマニュアルを作成している。終末期の対応は、家族が望めば対応していきたいと考えている。	○	重度化や終末期の対応について、状況変化に応じた関係者間での話し合いをどのように進めていけばよいのかなど具体的にすることを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「さんぽみち」への写真掲載などは、家族に確認している。個々の記録には他の入居者の固有名詞は使わない、居室への入室は必ず声をかけたりノックをするなど信頼できる関係作りに努めている。書類は、事務室の鍵のかかるロッカーに保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課表はあるが、入居者の希望で散歩に行きたい、カラオケをしたい等希望が分かれた時には職員も分かれて、要望が叶えられるように支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎朝、当日の食べたいものを聴き、入居者の好みを取り入れたメニューで食事を提供している。希望がかなえられない時には説明し、翌日に対応している。入居者と職員は一緒に準備を行い、会話をしながら食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者は一日おきに入浴し、一人ひとりがゆっくり入浴できるように配慮している。仲のよい入居者同志と一緒に入りたいとの希望や毎日入浴したいとの希望があれば対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事時の号令、洗濯干しやたたみ、農業経験者には家庭菜園の栽培指導、化粧品セールス経験者には化粧のアドバイスなど力を活かした役割を担ってもらっている。読書、折り紙、カラオケなどを楽しみ、風船バレーやウッドデッキでのスイカ割りなど気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	せせらぎ公園への散歩や福祉センターを訪ねて利用者と会話を楽しんだり、ドライブで紅葉見物、外食、買い物など機会あるごとに出かけている。獅子舞等の地域行事に参加する時には、晴れ着に着替え化粧を楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけていない。開設当初に帰宅願望の入居者がいたが、見守りを行い玄関から一緒に少し外を歩き落ち着かせるなど支援を行い、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回のうち1回は消防署の指導を受け、通報、避難、消火訓練を入居者と共に実施している。マニュアルや緊急連絡網を作成し、運営推進会議では地域の人達に協力が得られるように働きかけている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各食事の摂取状況を記録し、水分は個人の表を作り摂取状況を記載している。入居当初、ミキサー食の入居者も他の入居者と同じものが食べたいと希望があり、嚥下もできるためキザミ食に変更するなど一人ひとりの状態や力に応じた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	床暖房が施された居間兼食堂は広々とゆったりしており、観葉植物や花が生けられ、テーブルは3箇所配置して気の合う入居者同志が語り合えるように配慮している。浴室・トイレ等清潔に保たれ、ウッドデッキは周囲の山々が望め季節を感じて居心地よく過ごせるようにしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具やテレビ、愛読書の本が持ち込まれ、写真や貼り絵が飾られ、職員がペットボトルで作った植木鉢には花が植えられる等居心地よく過ごせるような工夫をしている。		